

<全体分析>

試験時間 60 分

解答形式

全問マーク式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

例年通り〔Ⅰ〕で文章正誤問題が出題され、〔Ⅲ〕で史料問題が出題された。

〔Ⅱ〕～〔Ⅳ〕(小問数30)のうち、文章4択は12問で、そのうち「なければエを選べ」の形式は3問、年代整序問題は出題されなかった。

時代別では、近代が4割程度、中世が3割程度、近世が2割程度、古代が1割程度で、原始および戦後からの出題はなかった。

分野別では、社会経済が4割程度、文化が3割程度、政治が2割程度、外交が1割程度であった。

その他トピックス

〔Ⅳ〕設問2.が冬期講習関関同立大日本史第5講**3**設問5.にズバリの中。

〔Ⅳ〕設問6.7.が冬期講習関関同立大日本史第5講**3**設問12.にズバリの中。

<大問分析>

| 番号  | 出題形式                                | 出題分野・テーマ         | コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)   | 難易度 |
|-----|-------------------------------------|------------------|---|-----|
| 〔Ⅰ〕 | 正誤<br>文章                            | 古代～近代<br>総合      | 古代～近代の総合問題<br>5. a. の国地頭についての知識は詳細だが、後ろの「武家としてはじめて地頭を設置した」というところで平氏の設置した地頭を想起して誤文と判断したい。6. a. では南北朝～室町時代の詳細な前後関係が問われ、10. a. では実際に予備役から軍部大臣に就任した事例が無いことが詳細な知識であるが、ほかには基本的な知識で対応できるため、取りこぼしのないようにしたい。           | 標準  |
| 〔Ⅱ〕 | 選択<br>文章4択<br>用語4択<br>組合せ4択         | 中世・近世<br>社会経済    | A 中近世の商業集団<br>B 中近世の農業の発展<br>2. は、「神人」や「供御人」などの受験生には耳慣れない用語により判断に迷うと思われる。3. ア. は、「石山」「富田林」といった寺内町が楽市であったことから判断できるが、詳細。4. はイ. 選択肢中の「楽市」のキーワードに注目したい。   | 標準  |
| 〔Ⅲ〕 | 選択<br>文章4択<br>用語4択<br>組合せ4択<br><史料> | 中世・近代<br>社会経済・外交 | A 新補地頭(『新編追加』)<br>B ハル=ノート<br>Aは、1行目の「去々年の兵乱」や4行目の「此の率法」などから、承久の乱や新補率法に関する史料だと判断したい。4. は史料中の空欄が多い一方で正確な読解が求められるため、難。5. は、九条頼経が将軍に就いた時期(1226年)の知識が詳細。Bは設問もヒントにハル=ノートだと読み取ってほしい。6. 7. は、オランダも加わったABCD包囲網を想起したい。 | やや難 |

|      |                                   |          |  |     |
|------|-----------------------------------|----------|--|-----|
| 〔IV〕 | 選択<br>文章 4 択<br>用語 4 択<br>組合せ 4 択 | 近代<br>文化 | A 明治期の西洋文化<br>B 大正～昭和初期の学術・文化<br>本学では頻出の近代文化からの出題であり、設問も標準レベルで、過去問演習などの対策の有無で差がついたと思われる。 | やや易 |
|------|-----------------------------------|----------|--|-----|

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

学習対策の要は、文章正誤問題・史料問題・近現代史の3点にある。

- ①〔I〕の文章正誤は2行程度の文章が定着し、正誤の判断基準も明確である。ここでは、正文の詳細な記述に惑わされずに誤文を特定できる力を身につけることが重要である。また、文章4択問題が多数出題されるので、歴史事項の内容・時期の理解に力点を置いた学習が必須である。なお、選択肢の文章は教科書に準拠した表現が多いので、本文だけでなく脚注・コラム・図版の説明にも留意して対策を進めたい。
- ②史料問題は必ず大問1題出題される。頻出史料の占める割合が高いため、教科書とともに市販の史料集や河合塾の講習などを利用して史料の内容把握を中心とした学習を心がけること。
- ③近現代史からの出題が多い。文化史も含めて近現代史の対策を怠らないこと。
- ④同一のテーマや事項が繰り返し出題される傾向がある。また、文章正誤や史料問題の形式などに慣れておくためにも過去の問題の研究（5年分が目処）を怠らないこと。